

ガリシア語における弱勢代名詞の動詞に対する位置について

金子 亘

(欧米第二課程スペイン語専攻)

キーワード：ガリシア語、弱勢代名詞、前接、後接

0. はじめに

ガリシア語¹では弱勢代名詞²が動詞に従属する際、動詞の直後につく場合(前接³)と、動詞の前に出る場合(後接⁴)がある。文法的に、どちらかのみとり得る場合もあるが、両方とりうる場合も同様に存在する。本稿ではガリシア語における弱勢代名詞使用傾向を分析することを目的とする。卒業論文では用例収集調査とインフォーマント調査を行ったが、本稿では紙面の都合上用例収集調査のみ取り扱う。

1. 先行研究

卒業論文ではガリシア語の先行研究として Álvarez ほか (1998)、浅香 (1990)、Calero (1979)、富野 (2001) を、カスティーリャ語 (スペイン語) の研究として西川 (1995)、ポルトガル語の研究として田所・伊藤 (2004)を挙げているが、本稿では紙面の都合上ガリシア語に関係する富野 (2001)、浅香 (1990) を主に取り上げる。

1.1. 富野 (2001)

富野 (2001) は、主に統語的特徴から弱勢代名詞の前接と後接の分類を行っている。この節では富野 (2001 75-81) を要約した上で必要に応じて Álvarez ほか (1998)、Calero (1979)の記述で補足説明をする。

富野 (2001)は、弱勢代名詞は主節では原則として動詞前接となる、と述べた上で動詞後接となる条件として以下の5つを挙げている。

- 1) 文頭に否定語、または副詞[*acaso* (おそらく), *ata* (さえ), *case* (ほとんど), *disque* (たぶん), *incluso* (さえ), *somente* (だけ), *tamén* (もまた), *xa* (もう、すでに) など]を伴う場合。
- 2) 疑問詞を伴う疑問文、感嘆文、祈願文の場合。
- 3) 動詞の前に補語や直接目的語がある場合。

¹ スペインのガリシア地方を中心に話されるロマンス諸語の1方言。ガリシア・ポルトガル語に属しポルトガル語と互いに方言関係にあるが、話者の殆どはスペイン語との二言語併用者である。音韻、形態、語彙面でカスティーリャ語(スペイン語)の影響を多く受けているが、統辞面ではポルトガル語との共通性が濃い。(黒澤 1988 : 1285-86 を要約)

² 与格・対格・再帰代名詞をまとめた呼称で、強勢が置かれないことに由来する。富野(2001)、Calero(1979)が用いている。本稿では弱勢代名詞に当たる部分はイタリック体で記述する。

³ 先行の語に依存し、これとアクセントの上で一語のようなまとまりをなす。(亀井・河野・千野編 1996 : 844) 本稿では、*paréceme* のように代名詞が動詞の後に来る場合を指す。

⁴ 後続する語に依存し、これとアクセントの上で一語のようなまとまりをなす。(亀井・河野・千野編 1996 : 524) 本稿では *me parece* のように代名詞が動詞の前に来る場合を指す。

- 4) 文体的な理由により、ある語を強調する場合。
- 5) 従属節の場合。

(富野 2001: 75-81 を要約)

但し、5)においては Calero (1979: 295-6)によると、従属節の接続詞と動詞の間に節が挿入されると前接にもなりうる。

また、富野 (2001)は、前接・後接両方とりうる条件として以下のものを挙げている。

- 1) 動詞迂言句⁵の場合。
- 2) 「前置詞+不定詞」の場合。

(富野 2001: 75-81 を要約)

現在分詞に関して、Álvarez ほか (1998: 203)によれば、否定語や前置詞 *en* を伴う場合は、前接・後接どちらも取る。それ以外は前接である。

1. 2. 浅香(1990)

浅香(1990)は文法的な分類以外にも照応転換の規則による分類を試みている。浅香(1990)は、文中で一次的なアクセントを持つ語を「フォーカス (焦点)」、二次的なアクセントを持つ語を「トピック (話題)」とし、フォーカスの位置により代名詞の位置も変化すると述べている。

(1) Axudou = nos o pai. → (2) O pai nos axudou.

手伝う 3.単直完過 1.複対 定冠 父

「父が私達を手伝ってくれた。」 「父が私達を手伝ってくれた。」

(浅香 1990: 38)

(2)の例文では *o pai* がフォーカスに当たる。*o pai* は文頭にあり、弱勢代名詞 *nos* は、それに引きずられて前に出たものであると浅香 (1990)は述べている。

2. 本研究の目的

富野 (2001)は、弱勢代名詞の前接・後接における一般的規則を示したが、強調といった理由で本来動詞前接である代名詞が後接になる可能性も示唆したため、上記に挙げた規則に反する例外も生じると仮定できる。そこで、本研究ではガリシア語のテキストから用例を収集、分類することで、弱勢代名詞の位置における規則における例外は存在するのか、例外はどの程度の割合を占め、どのような場合に生じるのかを検証する。

3. 調査結果

3. 1. 文学作品による調査結果

今回調査に用いた作品は Alfonso Rodríguez Castelao の“*Retrincos*”(1934)、“*Os vellos non*

⁵ 「助動詞+(前置詞・関係詞)+不定詞・現在分詞」の形式で助動詞が後方の動詞に「願望」・「義務」・「進行」・「継続」などの意味を付け加える語法をいう。

deben de namorarse”(1953)の2点で、収集した用例総数は695例である。前者は全21ページで、5つの異なる短編小説を集めたものであり、後者は全65ページで、全3章により構成される戯曲である。

以下に用例収集結果を表で表す。富野(2001)の指摘をもとに、まず「目的語が前置されていない場合」と「前置されている場合」に分け、前者をさらに文・節単位の条件と句単位の条件に分け、それぞれの例を表1・表2にまとめる。「目的語が前置されている場合」は表3でまとめる。また、1.1.で触れた「動詞迂言句」は表4と表5にまとめる。表1～3に関しては、「前接の例数/後接の例数」の形式で表す。なお、文の形式、共起する要素が同じ中で両者間の数字に極端な差がある場合は、数字の大きい方を網掛けで表す。「共起する要素」における「副詞」は「動詞の前に副詞が来る場合」、「否定+副詞」は「動詞の前に副詞が来てなおかつ否定語を伴う場合」を意味する。また、句単位の「形式」における「不定詞」は文の主語など「前置詞+不定詞」以外で不定詞が現れた場合」を意味する。

表1: 文学作品による用例収集結果1(文・節単位)

形式 \ 共起する要素		肯定	否定	副詞	否定+副詞	合計
平叙文	主節	200/5	0/30	2/21	0/4	260
	従属節	7/125	0/13	0/7	0/1	152
疑問文	疑問詞付	0/9	0/1	0/0	0/0	5
	疑問詞無	4/0	0/1	0/0	0/0	10
感嘆文	疑問詞付	0/11	0/0	0/0	0/0	11
	疑問詞無	10/0	0/0	0/6	0/0	16
祈願文		0/1	0/0	0/0	0/0	1
命令文		33/0	0/19	0/0	0/0	52
合計		254/151	0/64	2/34	0/5	510

表2: 文学作品による用例収集結果2(句単位)

形式 \ 共起する要素	肯定	否定	副詞	否定+副詞	合計
前置詞+不定詞	49/2	1/0	0/0	0/0	52
不定詞	10/0	0/0	1/0	0/0	11
現在分詞	23/0	0/0	0/0	0/0	23
合計	82/2	1/0	1/0	0/0	86

表 3：文学作品による用例収集結果 3(目的語が前置されている場合)

形式		共起する要素		肯定	否定	副詞	否定+副詞	合計
平叙文	主節			3/2	0/2	0/2	0/0	9
	従属節			0/0	0/0	0/0	0/0	0
疑問文	疑問詞付			0/0	0/0	0/0	0/0	0
	疑問詞無			0/0	0/0	0/1	0/0	1
感嘆文	疑問詞付			0/0	0/0	0/0	0/0	0
	疑問詞無			0/2	0/0	0/0	0/0	2
合計				3/4	0/2	0/3	0/0	12

表 1～3 については以下のことが言える。

- [1] 肯定の平叙文では、弱勢代名詞は主節内では動詞前接、従属節内では動詞後接となる。
- [2] 疑問文・感嘆文では、疑問詞を伴わなければ前接になるが、伴えば後接となる。
- [3] 文の形式に関わらず、否定語あるいは副詞を伴う場合は後接となる。
- [4] 肯定命令では前接、否定命令では後接となる。
- [5] 「前置詞+不定詞」においては前接が圧倒的に多く、後接は 3 例のみである。
- [6] 不定詞・現在分詞においては必ず前接になる。
- [7] 目的語が前置されている場合においては、例自体少ないものの肯定平叙文の場合は前接・後接両方となり、否定語・副詞を伴う場合は後接となる。

[1], [2], [3]は富野 (2001) が、[5]の現在分詞は Álvarez ほか (1998) が既に指摘しているが、[4]の命令文、[6]の不定詞に関しては管見の及ぶ限りではこれまで触れられていない。

次の表 4、表 5 は動詞迂言句を対象とした表である。動詞迂言句は助動詞と不定詞・現在分詞の間に前置詞・関係詞を入れる場合と入れない場合とで区別する。表 4 では *está coméndo* のように、助動詞の直後に不定詞・現在分詞が来る例を扱う。この場合、前接は 2 通り存在する。「助動詞+代名詞」での前接は *estáo coméndo*、「不定詞・現在分詞+代名詞」での前接は *está coméndo* という形である。また、表 5 では *comenzo a apréndelo* のように、助動詞と不定詞・現在分詞の間に前置詞・関係詞が入る例を扱う。この場合、前接・後接共に 2 通り存在する。「助動詞+代名詞」での後接は *o comenzo a aprender*、「不定詞・現在分詞+代名詞」での後接は *comenzo a o aprender* という形である。なお、表 4 において疑問文中に現れる例は存在しなかったため「疑問文」の項目を、表 5 において、疑問文・感嘆文中に現れる例は存在しなかったため、「疑問文」・「感嘆文」の項目を割愛する。

表 4 : 文学作品による用例収集結果 4 (動詞迂言句 (助動詞+不定詞・現在分詞))

共起する要素			肯定		否定		副詞		否定+副詞		合計
			前接	後接	前接	後接	前接	後接	前接	後接	
平叙文	主節	助動詞+代名詞	5	0	0	4	0	3	0		37
		不定詞・現在分詞+代名詞	20		4		1		0	0	
	従属節	助動詞+代名詞	0	9	0	0	0	1	0		
		不定詞・現在分詞+代名詞	8		3		1		1	0	
感嘆文	疑問詞付	助動詞+代名詞	0	2	0	0	0	0	0		3
		不定詞・現在分詞+代名詞	1		0		0		0	0	
	疑問詞無	助動詞+代名詞	8	1	0	0	0	0	0		
		不定詞・現在分詞+代名詞	0		0		0		0	0	
合計			42	12	7	4	2	4	1	0	72

表 5 : 文学作品による用例収集結果 5 (動詞迂言句(助動詞+前置詞・関係詞+不定詞・現在分詞))

共起する要素			肯定		否定		副詞		否定+副詞		合計
			前接	後接	前接	後接	前接	後接	前接	後接	
平叙文	主節	助動詞+代名詞	0	0	0	0	0	0	0	0	9
		不定詞・現在分詞+代名詞	7	0	1	0	1	0	0	0	
	従属節	助動詞+代名詞	0	3	0	0	0	0	0	0	
		不定詞・現在分詞+代名詞	0	0	3	0	0	0	0	0	
合計			7	3	4	0	1	0	0	0	15

動詞迂言句に関しては、他の文の形式と比べて例外の占める割合が多かった。つまり前接になる全 64 例のうち、後接になるための「否定語・副詞を伴う」、「従属節内に存在する」といった条件が含まれているにも関わらず、前接の形式をとる例が 24 例と、約 4 割近くを占めたのである。また、後接になる例は 23 例と、その割合は全体の約 27%程度であった。

3.2. 新聞記事による調査結果

今回調査に用いた資料は新聞サイト”Galicia Hoxe”(http://www.galicia-hoxe.com/)の 2008 年 10 月 24 日付、11 月 11 日付、11 月 13 日付の記事である。収集した用例総数は 354 例である。

以下の表で用例収集結果を表す。表の形式、分類は 3.1. と同じである。なお、表 8 では疑問文・感嘆文中に現れる例が存在しないため「疑問文」・「感嘆文」の項目を割愛する。

表 6：新聞記事による用例収集結果 1(文・節単位)

形式		共起する要素	肯定	否定	副詞	否定+副詞	合計
平叙文	主節		74/3	0/11	0/5	0/1	94
	従属節		12/137	0/15	0/3	0/0	167
疑問文	疑問詞付		0/4	0/0	0/0	0/0	4
	疑問詞無		0/0	0/0	0/0	0/0	0
感嘆文	疑問詞付		0/0	0/0	0/0	0/0	0
	疑問詞無		0/0	0/0	0/6	0/0	6
祈願文			0/0	0/1	0/0	0/0	1
命令文			0/0	0/0	0/0	0/0	0
合計			86/144	0/27	0/14	0/1	272

表 7：新聞記事による用例収集結果 2(句単位)

形式	共起する要素	肯定	否定	副詞	否定+副詞	合計
前置詞+不定詞		29/2	2/1	0/0	0/0	34
不定詞		9/0	0/0	0/0	0/0	9
現在分詞		1/0	0/0	0/0	0/0	1
合計		39/2	2/1	0/0	0/0	44

表 8：新聞記事による用例収集結果 3(目的語が前置されている場合)

形式		共起する要素	肯定	否定	副詞	否定+副詞	合計
平叙文	主節		2/0	0/1	0/0	0/0	3
	従属節		0/1	0/0	0/0	0/0	1
合計			2/1	0/1	0/0	0/0	4

表 7～9 については以下のことが言える。

- [1] 平叙文の肯定においては、弱勢代名詞は主節内では動詞前接、従属節内では動詞後接となる。但し、従属節内における動詞前接の割合が文学作品のそれよりも高い。
- [2] 文の形式に関わらず、否定語あるいは副詞を伴う場合後接となる。
- [3] 「前置詞+不定詞」場合、前接になる例が圧倒的に多く、後接は 3 例のみである。
- [4] 不定詞・現在分詞においては用例こそ少ないものの必ず前接になる。
- [5] 目的語が前置されている場合は、前置されていない場合に準じる結果となった。

[1]～[4]に関しては文学作品とほぼ同様の結果である。なお、[1]の「従属節内における動詞前接の割合が文学作品のそれよりも高い」点に関する考察は 3.3.で行う。

以下に動詞迂言句を対象とした表を表す。新聞記事においても、文学作品と同様に「助動詞+不定詞・現在分詞」と「助動詞+前置詞・関係詞+不定詞・現在分詞」を区別する。なお、

表 10 と表 11 において疑問文・感嘆文の中に現れる例は 1 つも存在しなかったため「疑問文」・「感嘆文」の項目は割愛する。

表 10：新聞記事による用例収集結果 4(動詞迂言句(助動詞+不定詞・現在分詞))

形式			共起する要素		肯定		否定		副詞		否定+副詞		合計
			前接	後接	前接	後接	前接	後接	前接	後接			
平叙文	主節	助動詞+代名詞	5	0	0	4	0	1	0	0	16		
		不定詞・現在分詞+代名詞	4		2		0		0				
	従属節	助動詞+代名詞	0	8	0	0	0	1	0	0			
		不定詞・現在分詞+代名詞	2		1		0		1				
合計			11	8	3	4	0	2	1	0	29		

表 11：新聞記事による用例収集結果 5(動詞迂言句(助動詞+前置詞・関係詞+不定詞・現在分詞))

形式			共起する要素		肯定		否定		副詞		否定+副詞		合計
			前接	後接	前接	後接	前接	後接	前接	後接			
平叙文	主節	助動詞+代名詞	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	
		不定詞・現在分詞+代名詞	0	0	0	0	0	0	0	0			
	従属節	助動詞+代名詞	0	1	0	0	0	0	0	0			
		不定詞・現在分詞+代名詞	1	1	1	0	0	0	1	0			
合計			1	2	1	0	0	0	1	0	5		

動詞迂言句に関しては、前接になる全 18 例のうち、後接になる条件を含んでいて前接の形式をとる例が 9 例と、占める割合が文学作品より多かった。しかし、後接になる例は 16 で、全体を占める割合が約 47%と文学作品より多いという結果が得られた。「従属節中に存在する」、「否定語・副詞を伴う」といった条件下では後接になる場合がより多かった。

3.3. 用例収集結果の考察

文学作品、新聞記事共に主節の肯定文においては前接が 9 割以上を占め、否定語・副詞を伴う場合及び従属節内では後接が 9 割以上を占めていた。ただ、新聞記事では、従属節内の肯定文における前接の例が占める割合が文学作品のそれに比べて若干高かった。これは、Calero(1979: 295-6)の挙げる、「従属節の接続詞と動詞の間に節が挿入される」場合と似ている。新聞記事内では接続詞と動詞の間に長い句が挿入され離れる傾向にあるためと思われる。また、「前置詞+不定詞」の場合、文学・新聞双方において殆どが前接である。これは、「前置詞+不定詞」の場合、前接・後接両方とりうる」という富野(2001)の指摘に反している。さらに、動詞迂言句においては文学作品と新聞記事でその使用傾向に差が生じた。つまり、文学作品では後接になる条件を伴いながら前接になる例が多く、後接は全体の 3 割に満たないのに対し、新聞記事では後接が動詞迂言句全体の半分近くを占めていた。後

接の条件を伴いながら前接になる動詞迂言句の殆どは「否定語/副詞/従属節を導く接続詞・関係詞+助動詞+不定詞・現在分詞+弱勢代名詞」の語順であった。本動詞に当たる後ろの不定詞・現在分詞と弱勢代名詞の結びつきが強く、代名詞を切り離して前に出すとその動詞の目的語である、ということが分かりにくくなるからではないかと考えられる。

4. おわりに

20世紀前半と半ばの文学作品、最近の新聞記事を対象とした今回の調査で、弱勢代名詞の位置において多少の差異はあるものの、大筋は先行研究の通りであることが判明した。しかし、動詞迂言句や「前置詞+不定詞」の場合など、一部の場合において先行研究と異なる結果も得られた。また、今回はテキストの用例収集調査であったため母語話者の意識を十分に反映したものとは言い難い。現代のガリシア語母語話者の日常会話などでの使用状況を検証するためにはより多くの世代別のインフォーマントにアンケートを取る必要があるであろう。

略号一覧

直	直説法	現	現在	完過	完全過去
1	1人称	3	3人称	複	複数
主	主格	対	対格	前格	前置詞格
不定	不定詞	形	形容詞	接	接続詞
疑代	疑問代名詞	指代	指示代名詞	代	代名詞
接法	接続法	点	点過去	不過	不完全過去
2	2人称	単	単数	前	前置詞
与	与格	所	所有格	定冠	定冠詞
現分	現在分詞	副	副詞	不冠	不定冠詞
疑形	疑問形容詞	再	再帰代名詞		

参考文献

Álvarez, Rosario, Rigueira, X, L., Monteagudo, H., (1998) *Gramática Galega*. Vigo: GALAXIA / 浅香武和 (1990) 「現代ガリシア語における clitic について」麻布大学教養部研究紀要委員編『麻布大学教養部研究紀要第23号』31-39 神奈川: 麻布大学 / Calero, Ricardo Carvallo. (1979) *Gramática elemental del gallego común*. Vigo: GALAXIA / 亀井孝・河野六郎・千野栄一編(1996)『言語学大辞典 第6巻 術語編』東京: 三省堂 / 黒澤直俊(1988)「ガリシア語」亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典 第1巻 世界言語編』1285-87 東京: 三省堂 / 西川喬(1995)「第5章 人称代名詞」山田善郎編『中級スペイン文法』103-120 東京: 白水社 / 田所清克・伊藤奈希砂(2004)『現代ポルトガル語文法』東京: 白水社 / 富野幹雄(2001)『ポルトガル語からガリシア語へ』東京: 大学書林

参考資料出典

Galicia Hoxe. <http://www.galicia-hoxe.com/>

Montero, X, Alonso, (1992) *Cuatro obras*, Madrid: ANZOS, S. A. – Fuenlabrada